

気象庁は、従来から継続実施している永年にわたる気候監視のための観測(永年気候観測)をはじめとして、普通気候観測・オゾン観測・高層観測等を含む気候観測を継続実施するとともに、海洋上での観測の整備をも含め、地上及び高層における各種観測の整備に努力する。また、気象庁は、現在種々の媒体により保有している多量の気候関連データを、より利用しやすい形態の気候データベースとして整備を図る。これらにより全地域的環境モニタリングの一環として大気変動のモニタリングをすすめるとともに、異常気象の解明に資する。

(2) 大気組成変動モニタリング

気象庁は、昭和50年より継続実施している大気バックグラウンド汚染観測に、二酸化炭素濃度の連続測定を追加する等の拡充を図り、今後も継続実施する。

(3) 海洋変動のモニタリング

気象庁及び海上保安庁は、日本近海、西太平洋及び南太平洋における海洋観測網の維持に努めるとともに、二酸化炭素をはじめとする気候変動要因の観測体制の充実を図る。

気象庁は、全世界海洋情報サービスシステム(Integrated Global Ocean Services System, 略称 IGOSS) 特別海洋中樞を整備し、海況変動の把握に必要な情報提

供に努め、WCRP の推進に寄与する。また、海上保安庁は日本海洋データセンターを整備する等、WCRP に必要な海洋観測データの収集、管理及び提供に努める。

大学、気象庁、海上保安庁等は、海洋観測の結果を所定の手順により、IGOSS 特別海洋中樞及び日本海洋データセンターへ提供することにより、協同研究の円滑な推進に協力する。

(4) 海水観測

気象庁及び海上保安庁は、従来より行っているオホーツク海等における海水観測、通報業務を関係機関の協力の下に継続する。また、気象庁は海水の予報業務を継続実施する。

(5) 衛星による観測

国際衛星雲気候計画 (ISCCP) に当初より参加している気象庁は、今後も、これを継続するとともに、新たにより詳細なデータ作成を行う努力をし、国際衛星雲気候計画の地域処理センターとしての機能を充実する。

また、気象庁は、全球降水気候計画(Global Precipitation Climatology Project) や熱帯風データ計画(Tropical Wind Data Project) 等に必要なデータを整備し、これらの国際的計画を推進する。

日本気象学会誌 気象集誌

第 II 輯 第 64 卷 第 4 号 1986 年 8 月

- 林 祥介・住 明正:『水惑星』モデルでシミュレートされた 30~40 日周期振動
- 吉崎正憲:熱帯スコールラインクラスターの数値実験:2 次元
- 栗原弘一・河原幹雄:東アジア異常天候:1983/84 年冬と 1984 年夏
- M.-C. TSAI and T.N. KRISHNAMURTI: 冬期モンスーン中のサージ低気圧の数値予報
- 中村 一・豊田威信・大林正典:1978~1979 年冬期の北半球における温暖前線と寒冷前線の長さの比率の地理的分布
- 篠田雅人・三上岳彦・岩崎一孝・北島晴美・江口 卓・松本 淳・増田耕一:1979 年 5~6 月の世界の降水分布における急変とその同時性
- 篠田雅人:1979 年北半球夏の熱帯アフリカにおける降水分布とモンスーン循環:東西アフリカの比較
- 近藤裕昭:盆地冷却の数値実験
- 高橋 勲:温かい雨への風のシアの影響
- 小林博和・西宮 昌:主成分自己帰帰モデルによる地表風系の予報
- O.P. BHUTANI and P. MITAL: 対称法による気象力学方程式の相似解
- 金谷年展:1982 年夏季の異なった天候レジームにおける波活動度の解析
- 住 明正:北半球の夏から冬へ向けての Convection Center の移動について